



フィグ・ヤーパン通信

第 42 号

FIGU-JAPAN BERICHT, Nr.42

発行日 2010 年 4 月 1 日

発行 フィグ・ヤーパン <http://jp.figu.org/>

2010 年 3 月 1 日 第 489 回 会 見 記 から

ビリー：……実は君に説明してもらいたいことがある。クリスチャン・フレーナーは、現在地球の大気中に含まれているCO₂の量についてマイケル・ホーンとジェイムス・ディアドルフが提起した疑問を私に伝えた。私は答えに確信がもてなかったので、2月25日にフロレーナに説明を求めた。この二人は現在の量はまだ危険ではなく、急速に上昇することもないと考えているようだ。さらに彼らはCO₂の量として4パーセントという数字を挙げたが、去年10月14日にわれわれがCO₂について会見した時には、そのようなことは問題にならなかった。フロレーナは私の質問に答えて、現在の正確な量は0.046パーセントであると言った。これは地球の科学者が不正確な計算に基づいてわずか0.039パーセントという数字を主張していることと反している。私は思うのだが、おそらく2人は誤解しており、地球の科学者の低い値を前提として、それがまだ危険ではなく、それゆえ重大事と見なす必要はないと考えたのではないか。それにしても彼らがなぜ4パーセントという数字を挙げたのか謎である。というのもわれわれの会見ではそのような数字は出てこなかったからだ。これについて君の意見はどうかね。

プター：現在の地球上のCO₂の量が0.046パーセントもしくは460ppmであると言うのは正しい。それは実際に地球の科学者が欠陥のある装置で測定したものより若干多い。この0.046パーセントという

CO₂の量は生命形態にとってまだ非常に危険というわけではないが、平均以上にCO₂にたいして敏感な人間の場合は、非常に頻繁に偏頭痛や吐き気やめまいが起こることがある。さらにこの分子は他のさまざまな要因のほかに気候にも強く影響して、気候変動に寄与する。つまり460ppmという量は有害ではないが、CO₂に敏感な人間にたいしてはある作用を及ぼし、さらに気候変動にも影響して、自然災害で多くの人間が命を失っている。大気中には0.046パーセントのCO₂が含有されているが、これは地中や海洋その他の水域に蓄積されたCO₂をまったく計算に入れていない。こうしたCO₂は蓄積を続け、種々の過程を経て徐々に遊離して大気にも到達する。さらにCO₂がすべての海その他の水域を酸化することによって害を及ぼすということにもまったく言及されていない。このガスは空気中の含量が約1パーセントに達すると、人間にとっても有毒であり、ごく一般的に頭痛や慢性的な疲労を引き起こす。さらに空気中の含量が8パーセントに達すると、絶対致死量となる。もちろんこれらすべてのことは長いプロセスを経て生じるのであり、今日か明日起こるというものではない。しかし地球人が制御されないままに増え続け、これまでのように過剰なガスを発生し続けるならば、全体を押しとどめることができない。将来生じるすべての要因によって、CO₂の量が突然急上昇することがあり得る。特に地中および海中に蓄積され、集まった分子がな

んらかの状況で空気中に遊離すれば、呼吸するすべての生き物にとって危険となり得る。このようなことはまだ生じておらず、近い将来に予想されてもいないが、460ppm という CO₂ の量が危険ではないというのは誤った仮定である。なぜならこれは驚くほど高い値だからだ。というのもこの分子により気候は著しく不都合な影響を受け、一部の人間には偏頭痛、吐き気、めまいなどの健康上の被害をもたらしているからである。およそ150年前は大気中の CO₂ の量は 0.028 パーセントであり、工業化の直前には 187ppm であった。したがってそれ以来 CO₂ の量は 273ppm も増えたことになる。地球の大気にはもともと微量の CO₂ が含まれていたが、残念ながら地球人はこのガスの量が大幅に増えることに非常に大きく貢献した。それは石油、天然ガス、石炭などの化石燃料を無責任にも過剰に燃やすことによつてであり、そしてまたその他の自然に、または化学的に産出された物質によつてである。飛行機、自動車、トラクター、その他のエンジン付き車両などの交通手段や、あらゆる種類の作業機械、内燃機関で駆動される船舶も大きく寄与している。なんらかの形でガスまたは石炭を用いて運転される発電所または工場もこれに属する。さらに世界中で熱帯雨林を伐採したり焼き払ったりすることや、沼沢地の森や肥沃な草原を破壊して住宅や工場などを建設することも、CO₂ の量の上昇に寄与している。

ビリー：それなのにずる賢い連中や知ったかぶり屋が繰り返し登場して、すべての危険を軽視するのだ。だが残念ながらそれを防ぐことはできまい。

プター：確実に言えるのは、すべてのことが現在あるよりもさらに悪くなるということだ。

ビリー：さて、英語についても尋ねたいことがある。どうして英語がアメリカ合衆国の公用語となったかは、アメリカの歴史から明らかである。われわれ FIGU のメンバーのヘルガ・フリードリヒは、これに関する事実を Dr. フレッシュレ教授から入手した。教授はこれに関する調査を行い、次のような最終結論に達した。

1794 年、アメリカ合衆国バージニア州で一握りのドイツ系市民がドイツ語のために尽力した。ドイツ語は印刷された法律（憲法と推測される）の最初の版でも使用されることになっていた（実際にドイツ語でも書かれた）。

1795 年 1 月 13 日にワシントンで会議が開かれて票決が行われた。議題はドイツ語と英語のいずれを合衆国の公用語とするかというものだった。その結果、42 票対 41 票でドイツ案が否決された。つまりわずか 1 票の差でドイツ語が否決され、英語が採択されたのである。この 1 票を投じたのはミュレンベルクという国会議員で、ドイツ出身の牧師だった。

つまりこの事実に従えば、昔からいろいろな観点でそうしてきたように、ここでもキリスト教がお粗末な役割を果たした。もしこの牧師がいなかったら、地球のあらゆる言語の中で今日最も価値のある言語であるドイツ語が、惨めな英語の代わりに世界中で話されていただろう。

プター：いま君が述べたことは正しい。が、君はそれを私から聞くこともできただろう。私もそれについて知っていたからだ。

ビリー：それは知らなかった。それにヘルガは先ほどの教授を長年知っていたので、この件で協力を頼んだのだ。ところで別の件で話したいことがある。それはかなり以前に話し合った地球の自転についてだ。その時に話したのは、地球の極や氷河が溶けたために自転の速度が速くなり始めたというものだった。氷の溶解の結果、地球の円周が小さくなる一方、氷塊によって圧縮されていた地層も再び少し膨張するということだ。しかしそれは大量に溶ける氷の厚さに比べれば非常にわずかである。そのため地表はわずかに隆起するにもかかわらず、円周は小さくなり地球の回転が速くなるという。君が言うには、この回転は人間には感じられず、それに適した技術装置を使って確認できるだけだ。会見のあとしばらくして私が言ったように、これらすべてのことを疑う声が上がった。最近またぞろ、すべてを疑う否定の声がある。というのは事態が正しく理解されずに、

地表が再び隆起するから地球の自転は遅くなると主張されているのだ。しかしこのような屁理屈は繰り返し出現する。なぜなら一方では、すべては正確に考察されることなく誤って理解され、他方ではわれわれの会見に誤りや矛盾を見つけ出しては、われわれに、とりわけ私に詐欺師かペテン師の汚名を着せようとするからだ。だから地球の自転のテーマを再度取り上げて、再び説明しておく必要があった。今日の会見でCO₂の件を再度取り上げたのも同じ理由からだ。地球の自転を改めて話題にしたのは、回転が速くなることについて君が語ったとおりのことを正確に説明した短い記事を読んだからだ。すなわち世界中で氷が溶けることによって地球は微妙に速

くなるが、それは人間には感じられず、特殊な装置によって確認できるにすぎないという。つまり君の言明が裏づけられたのだ。

プター：それ以外のことはあり得ない。というものなんらかの事柄で虚偽を言うことは私の性分に合わないからだ。残念ながら君が言ったように、人はよく考えることも理解することもせず、知ったかぶりや誤解から、あるいは君を詐欺師かペテン師呼ばわりするために疑いを抱く。

(出典：FIGU 特別公報第 52 号)

FIGU の著作を理解するために不可欠の前提

FIGU の書籍は、注意深く率直に偏見なく読むならば、あなたがたの思考世界を決定的に豊かにすることができる、絶対的に精密で正確な発言からなる極めて特別な著作です。

著作の発言がそれほどまでに精密である理由は、現在ドイツ語は私たちの地球上で、その豊かな表現性において必要なすべての要素および説明を具体的かつ誤解の余地なく正確に表現できる唯一の言語だからです。

使用されている古いドイツ語の書き方、正書法および表現形態は、おそらく奇異で独特の印象を与えることがあるかも知れませんが、解釈や誤解が最初から排除され、テーマを十全で論理的かつ明確に扱えるように太古から定められたものです。このことは現代ではドイツ語においてのみ可能です。

ドイツ語の極めて精密で絶対的に正確な説明は、現在地球上に存在する他のいかなる言語にも等価値に翻訳することはできません。その理由は、他の地球の言語にはドイツ語に匹敵する精密な表現を許さないからです。

このような事情から翻訳においては言語により程度の差はあれ、詳しい説明や言い換えや同義語が必要となりますが、これらは発言内容を薄めて誤解しやすくします。

したがって霊の教えおよびその要素に詳細に取り組み、そこからその後の人生のために大きな価値を

汲み出そうとするすべての人々には、常に理解が保証されるように、ドイツ語をその全体の豊かさと幅広い多様性において徹底的に習得することを強く勧めます。

ドイツ語を習得する労を払う人だけが、ドイツ語の文章を全面的かつ明確に理解し、その豊かさを十全に汲み尽くすことが確実に保証されます。

さらに考慮すべきは、ドイツ語の文章には BEAM によってコードが織り込まれていることです。

このコードは、文章の初めから終わりまで一語一語があるべき位置に誤りなく記されている場合にのみ完全に効果があります。

このコードはメモリーバンク領域からインパルスを開き放ち、それが読む人に感受されて、その人の内で作用を開始します。

この過程は無意識のものであり、強制や人為的操作とはまったく関係なく、メモリーバンクに永遠に格納された知識とだけかかわるものです。この知識が適当なインパルスによって解き放たれると、非常にゆっくりと再び意識内に浸透しはじめます。

この作用はドイツ語ができない人がドイツ語の文章を読む場合にも生じます。

この場合、文章を黙読しても、音読しても、または朗読してもらっただけでも構いません。

ドイツ語は古代リラ語に由来し、1語当たりの文字の数がまったく同じです。例：Salome gam nan

ben Urda = Friede sei auf der Erde (地球に平和あれ)

ドイツ語以外の言語はコードの受容に適していないため、BEAMにとって他の言語にコードを織り込むことは不可能です。

さらに考慮しなければならないのは、ドイツ語の多くの単語や概念は他の言語に存在しないということです。それゆえすべての外国語への翻訳はドイツ語の原文の意味を完全に伝えることはできません。

ドイツ語に関するプターとビリーの説明

(2010年2月3日の第487回会見)

プター：我々は実に努力した。君たちの問題を扱う委員会を設立したが、その結果、我々の言語学者と協力して、彼らとすべて協議して助言を得るという結論に達した。

その際に、我々はこれまでに『真理の杯』を英語に翻訳したすべての文章、さらに英語およびまたその他の地球の言語に翻訳された他の大小の著作をすべて鑑定した。

その結果、残念ながらすべてが極めて不十分であることが明らかとなった。なぜならドイツ語の原文からなされた翻訳はどれも原文に相当する価値を有していないからである。

原文の本当の意味が翻訳では与えられていないことが多い。当該言語には必要な確かな表現、概念および単語が存在しないからだ。

絶対的に等しい語義として用いて、発言やその意味を変えることなく文章中で交換したり、置き換えたりできるような同義語さえ存在しないことが往々にしてある。

ドイツ語にある無数の概念および単語が、他のすべての地球の言語には存在しない。そのうえ多くの概念および単語の真の意味が正しく認識されず、それゆえ完全に誤って理解される。

このようなことが起きる理由の一つは、概念および単語の起源がまったく不明であるか、誤った起源が真実と思われているためである。これはドイツ語の言語学者、すなわちゲルマニストの間でも起こり、それが概念や単語を根本的に間違っ使用したり説明したりすることにつながっている。

我々はあらゆる鑑定、検討および分析の結果に基

づき、君たちは今後本部として翻訳は一切行うべきでないことを全会一致で決議した。これには英語への翻訳も含まれる。

英語は真の言語とはほど遠く、中途半端に受け入れられている補助的な世界共通語にすぎない。アメリカ合衆国がイギリス英語やその他の言語を援用して、不正な策謀で世界中に広めたのだ。そのより深い意図は、この貧しいコミュニケーション手段によって地球人を英語を話す民族にしようとするにある。

それゆえ我々としては、君たちが『真理の杯』を完成したら、それ以後は翻訳を行わないことを勧める。この著作の英語の翻訳は、ドイツ語において与えられているすべての価値を不完全にしか含んでいない。

それも翻訳の基礎的な作業は翻訳会社の専門スタッフが行ったにもかかわらずだ。

およそ学ぶ人や関心のある人にとって有用で価値があり得るのは、彼らがドイツ語を相当程度学び、それによって霊の教えの著作の内容に向かい、すべてを理解する場合に限られる。

その他のすべての地球の言語において、霊の教えとこれに関するすべての著作の翻訳は、そうした翻訳が出来上がった時には、真理の意義の弱い反射光しかもたらさない。……

ビリー：……しかし君は、私もよくそうするが、概念と単語についてそれほど明瞭に語るのだから、この二つの価値について一度説明しておく必要があるだろう。ドイツ語を話す多くの人間は、ゲルマニストもそうだが、この二つを区別していないからだ。

そこで言うならば、概念とはいわば全体として思考単位の本質的な特徴をなす観念の内容であり、そこから特定の見解や意見、イメージや理解が生じる。これらはすべて口頭で、つまり言葉を用いて、しかしまた文字によっても表現することができる。

これに対して単語は発話の小さいまたは最小の言語単位だ。しかしながら単語は発話せず、つまり無声でも文字によって書き留めることができる。

それゆえ単語は特定の意味内容をもった言葉およびまた文字による表明であり、言葉および書き言葉の小部分または最小部分をなしている。

— UFO 未知の世界の宇宙船 —

UFO

未知の世界の宇宙船（前号からの続き）

純粹に物理的に見ると、宇宙の構造とその発生は、古来人間を魅了し、興味を引き起こしてきた比類ない奇跡である。しかし地球の人間はまだすべてを細部まで説明できず、すべてを実際に理解することもできない。事実人間はこれまでのところ、宇宙全体が宿す秘密のほんの一部を知っているにすぎない。したがってすべての事物は今日なお説明するのが非常に困難であるが、その原因は常に不十分な形でしか探求できないことにある。今後もすべてにおいて巨大な曖昧さが支配し、説明や認識が勝利することはありません。そして稀に闇の中により多くの光明をもたらすことのできる人間が現れても、嘲笑されるか、追放されてしまう。たとえばかつてジョルダノ・ブルーノは、近代ではとうに証明済みの見解を表明しただけで、7年間投獄されたあと、宗教裁判によって異端者として火あぶりにされた。彼は哲学者として世界霊魂の教えを説き、銀河や全宇宙の巨大さと比較して見れば太陽系全体は万有に紛れ込むちっぽけな砂粒にほかならず、また理性を与えられた生き物が住む惑星が太陽の周りを回っているという見解を述べた。また、宇宙はあらゆる部分において一つであり、したがって統一的な法則に従属しており、生命は地球の生命体に等しいかまたは類似した無数の形態とバリエーションで発達し、それどころか地球上の生き物と等しいか、それよりも高い発達段階にあるという。つまりジョルダノ・ブルーノはすでに16世紀に、宇宙が無限性であり、宇宙全体には生き物が住んでいる世界が多数存在すると語ったのである。

残念ながら今日でもたいいてい人間は、理由は何であれ地球外の飛行装置が地球の大気圏内に飛来し、我々の世界を訪れているという事実を信じられない笑い話と見なす。それどころか多くの者は、およそ地球外の知的生命体が存在するという事実を物笑いの種にする。この否定的な態度は、宗教（たとえばキリスト教。しかしこれも徐々に変化し、次第

に地球外生命体の可能性に言及するようになった。なぜならもはやそれ以外の道は残されていないからである）の誤った主張に基づいているだけでなく、あらゆるメディアが情報義務を怠っていることに起因している。しかもメディアはこれまで必ずと言っていいほどUFO問題を茶化してきたが、そのうえに意図的に操作された偽情報を真実として報道して、広範な大衆を誤導してきた。その起源は根本的にアメリカ合衆国にある。アメリカは自国内で最初のUFO騒動が起きて以来、大衆に十分情報を与えて啓蒙し、言葉の真の意味で近代における世界史上最大の事件になじませることを極度に恐れてきた。そしてすべてが意図的に国家安全保障の名目で隠蔽された。そのため本格的なUFO研究も、軍や研究者や諜報機関が地球外の飛行物体に関して手に入れたセンセーショナルな認識の公表も妨げられた。それどころかUFOが地球の大気圏内に飛来し、それが日夜目撃されていること、さらにはアメリカや他の国のいろいろな場所で墜落していることについて、実際に起きたことを一切知らせず、全大衆を誤導するために意識的にあらゆる策が講じられたのである。

アメリカ政府（他の国の政府も同じだが）のこの非民主的なやり方は欺かれた大衆を徐々に結集させた。なぜなら彼らは民間のUFO研究者を通じて次第に、地球外飛行装置が地球に飛来していることを理解し始めたからである。その結果、合衆国政府は（他の国の政府も）UFO関係の情報を徐々に開示せざるを得なくなった。それ以来、UFOの実在およびその地球外の起源と乗組員は、アメリカだけでなく全世界で広範な大衆の間に強い関心と呼ぶようになった。しかしこれは政府がUFO関係の情報を大衆に全面的に開示したなどということの意味するものではなく、その正反対である。これに関する情報の大部分はいまだに厳重な機密扱いのままであり、大衆の目の届かないところにある。あらゆる種類のメディアもこの点ではいまだにお情報義務を遵守しておらず、昔ながらのやり方ですべてのことをお笑い種として扱っている。例外は、偏見なく真理を追求

するごく一部の出版社などだけである。それゆえUFOと地球外知的生命体の件に関して必要な事実を収集して、この重要な現代の現象について多少でも情報を手に入れ、発言できるようになるのは個々の人間にゆだねられている。そしてこの件に関して関心のある人々に重要な情報収集作業を容易にし、そもそも可能にするために指摘するならば、特にミヒャエル・ヘーゼマンの『マガジン 2000』（キオスクや予約購読で入手可能）および彼が発行しているすべての刊行物や書籍は、UFOに関して実際に起こったすべてのことを知っておくために、およそ望み得るすべての必要な情報を含んでいる。

UFOの件に関する長年にわたる情報秘匿の状況は、スイスでも1994年に終焉を迎えた。この時まで非常に多くのことが秘密にされたり、誤った報告がなされたりしたが、いよいよUFO現象に関する空軍の文書が公開されることになったのである。その際に強調されたのは、つい数年前まで冷戦が続いており、そのためにすべてを秘密にしておかなければならなかったということである。その真偽はともかく、スイスでは多数のUFO目撃報告と並んでスイス空軍パイロットによるUFO追跡に関する膨大な記録が存在しているというのは事実である。それは有名な本や雑誌の著者が詳しい調査に基づいて書いているとおりである。たとえば飛行中にわずかに数秒間に何キロメートルも離れた地点に移動させられたという戦闘機のことも報告されている。さらに空軍の訓練飛行中に起きた事件が相応の騒ぎを招いたことも報告されている。たとえば火の玉のような見慣れない物体が目撃され、しかもそれはレーダーでも捉えることができた。さらにスイス軍のレーダーはきわめて謎めいたエコーを記録したが、それは専門家によっても説明できなかつた、等々。

UFOに関してスイスは特別な位置を占めているが、それはこの国にはUFOもしくは地球外生命体とコンタクトを取っている一人の市民が住んでいるからである。これらの地球外生命体はプレアデス／プレヤール星団からやってきて、自分たちの飛行装置をビームシップと呼んでいる。これら地球外の人間は別の時空構造からやってくるが、そこでも彼らの故郷の天体はプレアデスもしくはプレヤールと呼

ばれている。したがって彼らの起源は我々の時空構造にあって地球から約420光年離れた宇宙を移動しているプレアデス星団、すなわち我々の目に見えるプレアデス星団ではない。プレアデス／プレヤール人の故郷は、我々の太陽系から約500光年離れた地点にある。

このスイス人のコンタクティーとは「ビリー」エドゥアルト・アルベルト・マイヤーである。彼は国際的な広がりを持ったUFOの舞台で一種異彩を放ち、おそらく世界で最も良質のUFO写真を持っているが、それらはプレアデス／プレヤール人の許可を得て撮影したものである。彼が地球外生命体とコンタクトを取っているのは紛れもない事実であるにもかかわらず、世界中で最も敵対視されているコンタクティーである。したがって彼は敵や、ねたむ者や、誹謗者や知ったかぶり屋などによって絶えず攻撃されているが、数多くの暗殺の企ても彼をひるませることはない。彼の人物については多くの噂が広まっているが、それは彼がこれまでかなり冒険的な人生を送ってきたからにはほかならない。たとえばアルフレート・ブバールは著書『我々は何を待っているのか』（エディション・タウ&タウ・タイプ）の中で彼について次のように書いた。「彼の人生と体験史にはにわかに信じがたい部分もあり、この謎めいた男を理解しようとするならば、あらゆる先入観を捨てなければならない……最初は一種の冒険家で、その知識欲をイスラムのスーフィー教徒の共同体で、後にインドのアショカ・アシュラムで満たした。後にトルコでトラックの運転手として働いている時に交通事故で左腕を失った……このビリー・マイヤーはどうやらプレアデス人から特別選ばれたようで、地球外のビームシップのこのうえなく上質な撮影にも成功した……」

この写真集に含まれているUFOもしくはビームシップの写真は、プレアデス／プレヤール人の命を受けて撮ったもので、すべて「ビリー」エドゥアルト・アルベルト・マイヤーが不正操作のできない単純なオリンパスカメラで撮影したものである。これらの写真はビリー・マイヤーが著した本『宇宙の深遠より—プレアデス／プレヤール人とのコンタクト』に掲載された。

(おわり)

フィグ・ヤーパンからのお知らせ

□ これから出る本 □

ビリー・マイヤーと地球外知的生命とのコンタクト記録を記した、『プレアデス／プレヤール人とのコンタクト記録（5）』につきまして、水瓶座時代出版からの出版に向けて、最終的な作業が進められています。さらに、高次の霊形態からのインスピレーションによってビリー・マイヤーが記した『アラハト・アテルサータ』についても、出版に向けての最終的な作業が行われているところです。以上の2冊については、7月に発行予定の『フィグ・ヤーパン通信第43号』にて出版のご案内を差し上げる予定です。

その他、時事的な記事や重要性が高いものについて優先的に翻訳作業を行い、本誌『フィグ・ヤーパン通信』等で公開していく予定です。フィグ・ヤーパンの翻訳出版活動どうぞご期待下さい。

□ 『真理の杯』 翻訳の進捗報告 □

FIGUスイスが各国語に翻訳すべき最も重要な書籍として翻訳を奨励している『真理の杯』につきましては、読者の皆さまからのご支援によりまして、日本語への翻訳作業が進められています。現在翻訳者により、序章～第5章（全28章）まで翻訳が完了し、第6章の翻訳作業が進められています。

この書籍の翻訳作業では、記載されている内容によって、絶えず訳語を見直す必要が生じています。翻訳の作業は、翻訳者とビリー・マイヤー氏との間で常に書面による質疑応答を繰り返しながら進めら

れています。訳語に変更があった場合には、序章から翻訳済みの章まで見直しが行われ、変更されることとなります。このため、本書の翻訳作業は、通常の翻訳よりも時間と労力を必要とするものとなっています。

今後は、校閲等の作業が終了した章から順に、インターネットや本誌『フィグ・ヤーパン通信』等を通じて、順次公開していく予定です。もちろん、通常の書籍としての出版も実施予定です。なお、本書の特殊な公開の方法は、原著者ビリー・マイヤー氏の意向によるものです。

『真理の杯』の翻訳作業には、これまでの書籍と比較しても、翻訳に多くの時間と労力が求められています。読者の皆様にはご理解くださいますようお願い申し上げます。

□ 書籍類の発送について □

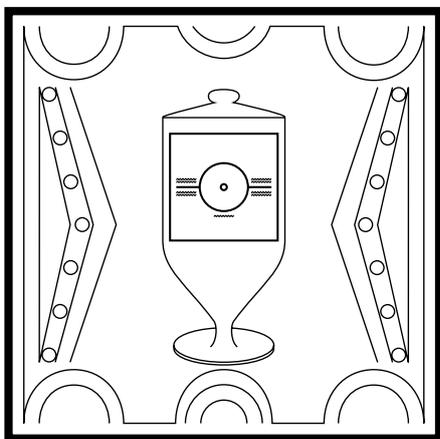
フィグ・ヤーパンの出版物の種類や読者数は、年々増加しつつあります。これに伴いまして、フィグ・ヤーパン事務所で行っている発送の頻度や作業量も増えつつあります。書籍類のご注文をいただいてから発送まで、1週間程度の日数がかかる場合があります。フィグ・ヤーパンのすべての作業は、メンバーとボランティアスタッフによる無償の作業によって行われています。読者の皆様のご理解とご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

□ 住所変更をお知らせください □

年度が変わるこの季節には、住所を変更される読者の方が毎年多くいらっしゃいます。お引越しの際には、フィグ・ヤーパンにも住所変更をお知らせください。

住所変更のご連絡は、FAX 042(637)1524、電子メール info@jp.figu.org または葉書にて承っております。

『フィグ・ヤーパン通信』は、読者の皆様にフィグ・ヤーパンの翻訳出版等の活動をお知らせする無料の広報誌です。本誌の購読停止を希望される場合にも、お手数ですがフィグ・ヤーパン事務所までご一報くださいますよう、お願い申し上げます。



真理の杯のシンボル

出版物のご案内

- プレアデス／プレヤール人とのコンタクト記録(1)
価格 2,000 円 (税込 送料別 375 グラム)
- プレアデス／プレヤール人とのコンタクト記録(2)
価格 2,000 円 (税込 送料別 440 グラム)
- プレアデス／プレヤール人とのコンタクト記録(3)
価格 2,000 円 (税込 送料別 335 グラム)
- プレアデス／プレヤール人とのコンタクト記録(4)
価格 2,000 円 (税込 送料別 430 グラム)
- 宇宙の深遠よりープレアデス／プレヤール人とのコンタクト
価格 3,000 円 (税込 送料別 765 グラム)
- 心
価格 2,000 円 (税込 送料別 440 グラム)
- 瞑想入門
価格 3,200 円 (税込 送料別 815 グラム)
- わずかばかりの知識と知覚そして知恵(文芸社刊)
価格 2,400 円 (税込 送料別 845 グラム)
- 生命の哲学
価格 1,000 円 (税込 送料別 150 グラム)
- 日本語版 水瓶座時代の声
価格 各 1,000 円 (税込)
83/1 号 (特集) (送料別 140 グラム)
83/2 号 (特集) (送料別 105 グラム)
87/1 号 (特集) (送料別 140 グラム)
91/1 号 (特集) (送料別 135 グラム)
- 第 235 回会見
価格 500 円 (税込 送料別 70 グラム)
- 霊と肉体における生
価格 500 円 (税込 送料別 70 グラム)
- ビリーの少年時代の著作
価格 500 円 (税込 送料別 95 グラム)
- 預言者エレミヤとエリヤの予告
価格 400 円 (税込 送料別 70 グラム)
- エノクの預言
価格 300 円 (税込 送料別 55 グラム)
- 『瞑想入門』の手引き
価格 300 円 (税込 送料別 70 グラム)
- 仕事やその他の有意義な活動をしなないと人間は墮落する
価格 200 円 (税込 送料別 30 グラム)
- 『連想／真理の杯』(DVD:FIGU-JAPAN講演会2009ビデオ)
価格 3,000 円 (税込 送料別 94 グラム)

※このページに掲載した以外にも多数の書籍があります。ホームページ等をご覧くださいか、フィグ・ヤーパンまでお問い合わせください。

□ 書籍のご注文について □

すべての書籍・ビデオ類のご注文は、郵便振替にて承っております。ご希望の書籍・ビデオ代金に以下の郵便料金を加えた金額を、お近くの郵便局から下記フィグ・ヤーパンの口座宛にお振込みください。なお、現金書留および切手同封による直接のお申し込みはご遠慮ください。

□ 郵便料金表 □

50 グラムまで 120 円	500 グラムまで 290 円
100 グラムまで 140 円	1000 グラムまで 340 円
150 グラムまで 180 円	2000 グラムまで 450 円
250 グラムまで 210 円	3000 グラムまで 590 円

※4,000 円以上お買い上げの場合、郵送料は無料です。

□ 振込用紙の記入欄 □

口座番号：00160-4-655758
 加入者名：FIGU-JAPAN
 (アルファベットで記入して下さい)
 金額：送料を含めた合計金額
 払込人：あなたの住所、氏名、電話番号
 通信欄：購入する書籍名と冊数

フィグ・ヤーパン通信 第 42 号 (無料)

発行日 2010 年 4 月 1 日
 発行 フィグ・ヤーパン (FIGU-JAPAN)
 住所 〒192-0916
 東京都八王子市みなみ野 3-11-2-305
 電話 042(635)3741
 FAX 042(637)1524
 URL <http://jp.figu.org/>
 E-mail info@jp.figu.org
 郵便振替 00160-4-655758
 加入者名 FIGU-JAPAN

本書の全部または一部を無断で複製複製することは、著作権法上の例外を除き禁じられています。本書からの複製を希望される場合は、フィグ・ヤーパンにご連絡ください。

Copyright (c) 2010 by FIGU-JAPAN. All rights reserved.